

参加型人権教育プログラム集の活用にあたって

プログラム集の構成について

人権学習をすすめる有効な方法の一つとして、参加体験型学習（ワークショップ）があります。一方的に講義や講演を聞くのではなく、参加者が主体的に学習活動に取り組み、そこから様々な気づきや学びを生む、参加体験型学習は多くの人権学習の場で活用されています。

参加体験型の人権学習の楽しさを感じていただけるようにと、本プログラム集には、人権学習の場で活用していただける10のプログラムを掲載するとともに、8つのフィールドワークを掲載しています。

地域や学校等での人権学習の実践に是非ご活用ください。

それぞれの学習テーマの構成について

- 1 参加型人権教育プログラムの「テーマ（タイトル）」「所要時間」「対象の年代」「準備品」など、準備にかかわる内容を紹介しています。
- 2 「発問の例」「時間の目安」「留意点」など、進行する上で必要になる内容を紹介しています。
- 3 学習を進める上で使う「ワークシート」「資料」などをのせてあります。コピーしてお使いください。

フィールドワークの紹介

長野県内にある人権ゆかりの人物・史跡・施設を紹介しています。地域に根ざした活動をする上で、参考にしてください。

留意点

本書の中には、差別したりされたりする体験を振り返るような活動、少数派になって活動を振り返るようなものも盛り込まれています。参加者の中には活動することによって過去の体験を思い出し、悲しい思いをしてしまう場合もあります。進行する上で参加者に無理強いをすることなく、「参加しない自由」も尊重するというような配慮が必要です。